



宮崎大学学術情報リポジトリ

University of Miyazaki Academic Repository

コミュニケーション能力育成のための教授法研究と
教師の指導力向上研究：
宮崎県教育研修センターとの協働プロジェクト

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊勢野, 薫, Iseno, Kaoru メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/5072

「英語教員指導力向上プログラム」
コミュニケーション能力育成のための教授法研究
と教師の指導力向上研究

ー宮崎県教育研修センターとの協働プロジェクトー

宮崎大学大学院教育学研究科

教授 伊勢野 薫

宮崎県教育研修センターと宮崎大学 教育文化学部・教職大学院との協働

- 平成20年度より「英語教員指導力向上プログラム」実施

参加者 平成20年度中学4名、高校5名

平成21年度中学3名、高校1名

平成22年度中学9名、高校3名

平成23年度中学5名、高校4名

平成23年度課題別研修 「英語教員指導力向上プログラムーリフレクティブ・ティーチン グとアクション・リサーチによる教師の変化と成長ー」

平成23年度研修の流れ

第1回研修 6月30日

午前 講義「リフレクティブ・ティーチングについて」

午後 ワークショップ「リフレクティブ・プラクティス」

神戸市外国語大学 玉井 健 教授

第2回研修 平成23年8月16日

午前・午後 中間発表・協議

第3回研修 平成23年11月25日

午前・午後 中間発表・協議

第4回研修 平成24年2月16日

午前 講演「脱・知識中心の教師研修ーリフレクティブ・プラクティスの実践」

神戸市外国語大学 玉井 健 教授

午前・午後 成果発表会・講評

研修の目的(1)

(1)コミュニケーション能力の育成のための教授法研究

参加者:授業改善のための処方箋と特効薬を求めて自主的に参加。
指導法:全てのコンテキストに通用する万能指導法・メソッドは無い。

研修で目標とするコミュニケーション能力育成のための授業実践とは

- 生徒が自発的に参加したくなる意味のあるコミュニケーション活動を展開する授業
- Whole personとしての生徒が活かされる授業
- コミュニケーションに目的があり、目的の達成を相手のフィードバックで確認できる授業
- 「意味ある活動」

コミュニケーションの成立する要素

Johnson and Morrow (1981)

- **information gap**
- **choice**: what the speaker will say and how she will say it
- **feedback**: to evaluate whether the speaker's purpose has been achieved or not based upon the information she receives from the listener
- purposeful & meaningful

研修の目的(2)

(2)教師の変化と指導力向上

教師の心情・信念に基づく態度の学びへの影響

自分の授業の振り返り、客観的観察、内省

自己研修能力の向上

- 指導技術中心から生徒への共感へ
- 千差万別な生徒と状況に対応しながら授業をデザインする

Strength-based Reflective Practice (Ghaye 2011)

Critical reflectionからConstructive/Creative reflectionへ

優れた点、長所をさらに進化させる

研修参加者の収集したデータ

- 1) 授業を録画したDVDと書き起こしの作成
- 2) 授業指導案とジャーナル
- 3) リフレクション
- 4) 作成した教材
- 5) 生徒へのアンケート:

ケース・スタディー T先生の場合

- 宮崎県北部の〇〇市にある定時制夜間高校
- 生徒： 4年生男子9名、女子17名
- 授業： オーラルコミュニケーション1

平成23年7月14日

(1) 指導案より

- 生徒の説明：
- -allergic to English, utter lack of grammar and vocabulary
- -can't read English words and sentences

平成23年7月14日

(1) ジャーナルより

- 「オーラルコミュニケーション」が英語だと知らなかった生徒から文句が出た。
- 生徒は日本語でも意見が言えない

(Cal's Comment) (CC)

「英語アレルギー」「読めない」: ネガティブな生徒観

「日本語訳をすると安心する」「日本語でも意見が言えない」: 低い期待度

2) 授業ビデオのキヤルの観察コメント

- (CC)ダイアログをゆっくり繰り返すが生徒を見ていない。
- 生徒は「やらされている」感を持っている
- 教師の独り舞台。教師の発言が9割近い。
- (CC)自問自答:生徒に語りかけていない。
- 生徒の理解:確認できていない
- 生徒を見て見ぬふり

7月14日のまとめ

1) 生徒を見るの無意識に避けている。
2) 生徒は無反応なのをわかっているが対策がわからない

3) 計画したことを終わらせようとしている

“T teaches what she wants to teach, not what Ss need to learn.”

4) 活動が生徒にとってどのような意味があるか

5) 一組に約3分かけている。(Wait time)

何か言ってもらいたいという教師の願いが感じられる。
(Strength)

平成23年12月22日

1) 指導案より

They will learn words and phrases about jobs.

(CC)授業の内容を生徒の生き方と関連付けようとする**教師の願い(Strength)**

ワークシートに32種類の職業名

(CC)コミュニケーション成立の要素であるChoice/Ss initiativeの充足

Ss should be the center in this lesson.

(CC)「**生徒が中心**」を実現しようとする**教師の態度の変化**

2) 書き起こしとキャルの観察コメントより

00:24

- T:これが最後の撮影となります。この前、撮影をした後に、君たちへの講評ということで先生方、大学の先生方がすごく聞く態度がいい、ペアワークをしていて皆さんが辛抱強く最後まで聞いていたと言われていました。今日は確かに難しいことをワンランク上のことをしますので、戸惑うこともあると思いますががんばっていきましょう。

(CC)生徒の協力への真摯な謝辞

「ワンランク上のことをする」: 生徒への期待

言葉使い: 生徒をwhole personとして接している

02:37

- T:最初に冬休みの宿題を配っておきたいと思っています。
- S:嫌です。

(CC)生徒が親しみを持っているために出た発言である。7月には教師が何を言ってもほとんど無反応であった。教師への信頼感が強くなっているといえる。

04:16

- T:すでにこのKey Expressions は勉強してますよね。で、今日はこのフレーズを使って自由にやってもらいたいと思います。(中略)。Future's job なので未来についてFutureについて君たちのことを聞きたいと思います

(CC) 本物のコミュニケーションを目指すという教師の姿勢
生徒のこれからの生き方に関連付け

職業名: 32種類

意味のあるコミュニケーション活動の実現

07:10

- T:これ習った表現ですけど、覚えてますか？
- (CC) 以前のように自問自答することなく、この質問のあとの待ち時間は30秒近くあった。その後一人の生徒が答えをだした。生徒への信頼が感じられる。

08:50

- T:じゃあ、ゆっくりいこうかね、What
- Ss:What
- T:are you going to do
- Ss:are you going to do
- T:this winter vacation
- Ss:this winter vacation
- (CC) 生徒の反応がよく、声もしっかり出している。7月とは比べ物にならない。

11:11

- T:そうですね。日曜日、そういうことで聞いていきます。
Warmupをしていきます。封筒にQuestionが入っています。
引いた人がpartnerにQuestionをします、そして自由にがんばって答えてもらいます。そしてさらに将来の職業ということに移っていきたいと思います。

(CC)生徒にChoice/initiative, information gap, Feedback
コミュニケーションの3要素

(CC)教師:何とか自分のことを英語で言ってほしいという願い
(Strength)

16:32

- T: M君Stand up please. 難しけどがんばって そこに書いてあるのもいいし、自分のでもいいです。
- S:What are you going to do this Sunday?
- S:I am going to play tennis.

(CC)スムーズに会話が展開

教師の本当にメッセージが聞きたいという気持ち

生徒たちが自発的に拍手

当たっていない生徒も発表者に注目

(学習共同体)

22:41

- T:じゃあ、教頭先生に聞いてみましょうか？
- S:What are you going to do this Saturday?
- 教頭先生 : Saturday? I will go to the department store.

(全員拍手)

(CC)ビデオ撮影をしていた教頭に質問する場面である。本物のコミュニケーションが成立している。

(3) ジャーナルより

うまくいったこと

- 生徒が英語で発表をするときに恥ずかしがったりしない雰囲気作りを心がけた
- 拍手によってクラス全員で褒めたり、間違ってもかまわない雰囲気やフォローをするように心がけた。

(CC)

生徒：リラックスしながらしかも集中

学習共同体をめざしてきたことがようやく定着

安心して発表

コミュニケーションの成立条件を充足

「本物」のコミュニケーションであることを直感的に感じていたため、スムーズな会話ができたのだと思う。

ジャーナルより

- すこし難しい取り組みについても、文句を言わず、我慢強く、教師の指示を聞いてくれ、教師が説明するときや、生徒達が発表するときの聞く姿勢がとてもいい。

(CC) 生徒に対するリスペクト

生徒 : whole person

教師の態度の変化 : strength

同じ授業をもう一度教える時の改善点

- 教材を欲張らず、メインの活動を支えるような Warm-up を軽く10分程度でして、生徒達が発表する場を多く取りたい。

(CC)

「教材を欲張らない」: スモールステップ
コミュニケーションの実現

生徒の学びの支援者としての教師: **strength**

まとめ

1)コミュニケーション能力育成のための教授法

7月の授業の授業:

規律を守らせる

教師のペースで授業をすすめる

12月の授業

3要素の充足:

コミュニケーション活動を生徒の実生活に関連付ける
ことで実現

まとめ(2)

2) Strength-based reflection

T先生の態度の変化が授業を変える

生徒への教師の願いを意識することで生徒中心の授業展開が実現: (strength)

生徒へのリスペクトが学習共同体の形成を促進(strength)